

1980年を 顧みる 県政この1年

東北新幹線ひかり号が県内にさっそうとデビュー。耐雪試験走行で時速210⁺を記録し、華やかに1980年が明けました。突然の国会解散、選挙史上初の衆参両院議員の同時選挙などと続いた国政の中で、本県一区選出の鈴木善幸衆議院議員が総理大臣に就任。県内は祝賀のムードに包まれました。

一方、この夏の異常気象で農作物は壊滅的な被害を記録、県経済が大きく揺れ動きました。

明暗こもごもの80年代のスタートとなったこの1年。私たちの身の回りに起きたことを振り返りながら、来たるべき新しい年に備えたいものです。



1月 雪なしの元旦、主な神社の初詣客は60万人に達し、人出を反映して交通事故も多発、3が日で死者2人、傷者28人を数え、関係者にとって多難なスタートとなりました。

北上川流域市町村の家庭や事業所などから出る下水を処理するため建設していた北上川上流流域下水道都南処理場の一部が完成、試運転に入ったのは9日。かまぼこなどの殺菌漂白剤過酸化水素に発ガン性があると厚生省が発表、3日後には業界が使用を自粛するという対応の早さ。花巻空港拡張の用地買収は最終段階を迎え、ひかり号の耐雪試験は大成功、雫石川の孤独のハクチョウが歌になったのがこのころ。モスクワ五輪に米国が不参加を決定、複雑な政治の裏側を見せました。

2月 前年秋からの天候不順で野菜が急騰し家計直撃、キャベツやハクサイが超高値を記録しました。国鉄再建法案が閣議決定され、三陸縦貫鉄道の建設促進を叫ぶ県民に衝撃を与えたのが19日。以後第3セクターで建設を進める方法など論議がかわされ続けました。一関に進出が決まったトーヨーサッシは、県土地開発公社と土地売買契約に調印。東北自動車道八戸線では、軽米町分の用地交渉が妥結。県立博物館は、フランス彫刻界の巨匠マイヨールの「三人の妖精」を購入することを決定。などがあり、このころ、昭和一ケタ生まれの男性の死亡が急増しているとの報告が出され、働き盛りの人たちに大きなショックを与えました。

3月 強風が吹き荒れ、北上市市内の東北自動車道で3件の連続追突事故が発生し、7人が死傷しました。猛スピードでつっ走る高速道での事故は、その影響が大きいだけに、恐ろしさを改めて県民に教えたものとして忘れられません。東北新幹線開業に合わせ観光客誘致のキャッチフレーズは「詩情ゆたかな岩手路」と決定。中尊寺では、藤原清衡公850年大祭が9月までのロングランとして幕を明けました。

新日鉄釜石製鉄所の主力「大形工場」が、操業を中止することになり、40年の歴史にピリオドを打ったのは26日。鉄の町釜石にとって厳しい合理化の波が吹き荒れました。大船渡市の赤崎漁協では、海を合成洗剤禍から守ろうと、その追放運動が広がり、大きな波紋を呼びました。

観光いわて売り出しへ 初の県勢功労者表彰も

4月 盛岡地方気象台は暖候期（4～9月）の長期予報で、「例年以上に不順な天候」と発表しました。これを受けた県農政部は、「天候を克服するのは技術」と、関係機関に通達。この予報が適中しないことを祈ったのですが…。

5年に一度の国勢調査の実施本部が店開きし、県観光推進実行委員会が設立され、一関児童相談所開設、岩手リハビリ学院の開院など新年度は、より一層充実した県民生活を確保するための各種施策が実質的にスタート。

金の先物取引で自殺者が出、被害に合った人たちが告訴するなど、大きな社会問題になりました。一方、東京で現金を1億円拾ったという人が出、落とし主が現れない怪奇な事件として注目を集めました。

5月 国会解散、JOCがモスクワ五輪不参加を決定するなど国政は大揺れ。

一関市で遊水地の起工式が行われ、永年の懸案だった地域の人たちの命と財産を守るための世紀の大工事がスタートしました。初の県勢功労者の表彰は、9人と1団体に決まり24日に表彰式。国道45号の田野畑大橋の起工式は27日。長さ315⁺、谷底からの高さ120⁺の橋が完成すると、交通の難所が解消されるだけでなく、地域経済の発展に大きく貢献することでしょう。

中国の華国鋒首相の来日や参院選のスタートのこ



▲わが国最大の一関遊水地が待望の起工式（一関市）

1980年 昭和55年 県勢ビックテン

- 1 本県選出の鈴木善幸氏が総理大臣に就任。
- 2 県政推進の指針となる県総合発展計画決まる。
- 3 戦後最大の冷害のため県に冷害対策本部を設置し、救農対策等に全力。
- 4 県民待望の県立博物館が完成し、マイヨール作「三人の妖精」などが除幕。
- 5 県高次救急センターが完成し、救急医療体制が充実。
- 6 県児童相談所の増設や青少年環境浄化条例による児童・青少年対策の充実。
- 7 大規模な増殖事業の展開により、サケの沿岸漁獲高が史上最高の1万トンを突破。
- 8 詩情ゆたかな岩手路キャンペーンによる観光客の増加。
- 9 北上川上流河川総合開発事業の御所ダムたん水開始。
- 10 県民の命と財産を守る防災行政無線が開局。

ろ、盛岡で32.9度という、5月としては盛岡気象台始まって以来の最高気温を記録。花巻空港問題は、地権者の協力によって事実上決着し、代替滑走路などの建設に拍車がかかることになりました。

6月 現職総理の突然の逝去によって、国政は混乱の度合を深め、こうした中で選挙史上初の衆参両院議員の同時選挙投票。県内でも激戦を反映して投票率75.39⁺となりました。

御所ダムの完成を間近に控え、湖底に沈む橋の架け替え工事が進み、繫大橋として2日に開通式。野



▲詩情ゆたかな岩手路キャンペーンを実施岩手にどうぞと呼びかけた（東京で）

菜生産者50人と知事が、東京神田の中央卸売市場を視察、関東周辺の生産農家を見て回り、売り込みと流通を学びました。

旧松尾鉱山から湧き出す鉱毒水を中和処理するため関連施設を建設していますが、最後に残された貯泥ダムの定礎式が行われ、北上川清流化へ大詰めの段階を迎えました。観光岩手を売り出そうと観光キャラバン隊が上京し岩手をPR。宝くじ1等3,000万円が盛岡市から出たのは20日のこと。

総理誕生にわきかえる 冷害は戦後最悪を記録

7月 総理大臣に県選出の鈴木善幸衆議院議員が就任。本県出身の総理誕生は歴代で5人目、戦後初ということもあって県内は祝賀の波につつまれました。日本や米国などが不参加のまま、モスクワ五輪が開幕、世界政治は一段と深刻さを加えました。

懸案の青少年のための環境浄化に関する条例が全面施行となり、青少年を取り巻く環境を浄化しようとする気運を盛り上げ、中小企業の技術改善を進めるため技術アドバイザー38人を委嘱、その指導に乗り出したのもこの月。

炎天下で熱戦、といえは全国高校野球の代名詞。しかし、冷たい日が続くばかりで28日には異常低温注意報が出るという始末。冷夏の影響は、野菜や果実に生育の遅れを見せはじめ、とうとう真夏日がゼロの7月となりました。海水浴客はさっぱり。



▲実らない稲を見る中村知事。冷害は県下各地に大きな被害をもたらした(久慈市)

鈴木総理大臣誕生に、県内は祝賀のムードがいっぱい(盛岡市)



8月 天候は依然と回復せず、成育期の水稻に大きな被害を与える気配、そのうえ、月末には集中豪雨に見舞われ、天候の回復の兆しもなく冷害は決定的になりました。三陸縦貫鉄道は、国鉄再建法案絡みで工事の進行が懸念されるなか、吉浜一釜石間が今年度分の工事を完了し中断されました。

過去4年間、極端な不漁に悩んでいたスルメイカ漁は、今年になって好漁に推移、大量水揚げに浜は活気づきました。岩手郡玉山村の小石川遺跡から、石やりなど130点が発掘され、北上山地から初めての旧石器時代の遺跡と、話題を集めました。

環境庁は、緑の国勢調査の結果、本県が「緑の豊かさ日本一」と発表。日教組盛岡大会が開かれ、金ヶ崎に進出した塩野義製薬、富士通では相次いで工場が完成、いよいよ始動しました。県政推進の指針となる県総合発展計画は29日に同計画審議会から最終答申されました。この月も真夏日ゼロ

9月 低温と日照不足のため各地で農作物に被害。県は冷害対策本部を設置し、被災農家の救済に全力を挙げることにしました。進められていた9月補正予算に別枠で14億円を計上。知事は9日から冷害被災地を視察、国に対しても万全の対策を構ずるよう精力的に働きかけました。

住民からの直接請求による臨時県議会が招集され、県交通バス問題が大きくクローズアップされました。県総合発展計画は22日にまとめ、今後県政推進の指針としてその実現に向け各種の施策が展開されます。日本コンデンサ工業(株)が岩手町に進出することが決まり、土地売買契約に調印。地熱資源の開発利用を話し合うため県地熱懇話会が初会合をしたのは29日のこと。

相次いで施設が完成 県立博物館オープン

10月 5年に一度の国勢調査、約8,000人の調査員の手によって作業が進められました。

県民待望の県立博物館が4日に落成式、翌5日華々しくオープンしました。館内に保有する資料3万点余り、初日だけで4,500人が見学するにぎやかさ。8日には、東北自動車道の滝沢一西根間が開通し、八幡平国立公園の入口まで延びただけに観光客誘致に拍車がかかるものと期待されています。

県冷害対策本部は、10日現在の冷害による被害額を681億8,000万円と発表。水稻は全体の79%に当たる538億7,200万円、平年作の56%に落ち込むなど戦後最悪を記録しました。

会社再建合理化と賃金問題で労使紛争が続いていた県交通問題は、21日ようやく收拾され、320日に及ぶ紛争にピリオド。東北新幹線は盛岡でレール締結式、仙台までの165*が結ばれました。

11月 懸案の施設が相次いで整備され、1日からスタートしました。まず、花巻空港ではジェット化時代に備えた2,000*滑走路のうち、1,200*が完成し、この日から供用開始。県民の命と財産を災害から守るため53年から工事を進めていた防災行政無線が運用を開始、開局記念式典が行われました。一方、交通事故や脳卒中などの患者を、24時間体制で治療する県高次救急センターもこの日から診療開始。

東北新幹線は、「大宮始発で57年3月開業をメド」というニュースが流れ、悲願としていた56年秋の開業が遅れるばかりか、上野始発が大幅に遅れるとあ



◀完成した県立博物館。恵まれた環境と豊富な資料が魅力。

宮城県と結ばれた東北新幹線のレール。ひかり号が盛岡まで来るのももうすぐ(盛岡駅)



に対応は大わらわ。さっそく県議会の代表が国鉄、運輸省に陳情しました。北上川上流河川総合開発事業の御所ダムは、完成にもう一息にこぎつけ7日にたん水式。本格運転に大きく前進しました。

10月1日の国勢調査の結果、県人口は142万1,969人と発表され、前回50年の調査より3万6,406人増。

12月 開会中の県議会定例会に、冷害対策関係費として7億5,000万円の予算を計上、9月補正に次ぐ第二弾。

開業時期や始発駅問題で揺れ動く東北新幹線は、今年初めの雪対策試験、6月の運転士養成運転に続き、16日から再度試運転が行われます。今度は、盛岡市までレールが締結されたこともあって、仙台車両基地から盛岡市までの165*をつつ走ることになります。

いろいろな問題を残しながら、やがて1980年は暮れていきます。この1年、皆さんにとってどんな年であったのか。より一層飛躍の1981年とするためにも、もう一度この年を振り返ってみるのも決して無駄なことではないと思うのですが…。